

2024（令和6）年8月23日

各 位

学校法人東京家政学院
東京家政学院大学

2025（令和7）年4月「生活共創学部」を新設

東京家政学院大学（東京都町田市・千代田区 学長：鷹野景子）による2025（令和7）年「生活共創学部」新設（現代生活学部を改組）の届出が、このたび文部科学省において受理されましたのでお知らせします。

新学部では、今後大きな発展が期待される「生活科学分野」において、新時代の担い手を育成すべく、生活者の視点に立った共感力、科学的な分析力とともに、**ビジネス・IT・地域創成など多様な関連分野との共創力**をもつ人材の輩出を目指します。あわせて「入試改革」「男女共学化」を行い、本学における3大改革を精力的に進めてまいります。

①令和7年 町田キャンパスに生活共創学部を開設※詳細は別紙1参照

生活共創学部（町田キャンパス：東京都町田市相原町2600）

➤生活共創学科（生活イノベーションコース・食科学コース・住環境デザインコース）

➤こども教育学科

②入試改革：総合型選抜は、「育成型」のアサーティブ入試を導入※詳細は別紙2参照

「選抜」する入試から、「育てる」入試へ入試準備の段階から「一人ひとりの成長と進路選択にきめ細やかな「サポート」を行います。

③生活共創学部は男女共学※詳細は別紙1、別紙3参照

2026年度には千代田三番町キャンパスの2学部（現代生活学部・人間栄養学部）も共学化します。

.....

★本件に関する取材等は、下記お問い合わせ先

学校法人東京家政学院 総務部（〒102-8341 東京都千代田区三番町22）

TEL:03-3262-2251 FAX:03-3262-2271 E-MAIL: soumu@san.kasei-gakuin.ac.jp

2024（令和6）年8月23日

別紙 1

生活共創学部について

現在、私たちは、新しいテクノロジーやイノベーションに富む時代に生きています。こうした未来の生活や社会の予測が困難な時代に求められるのは、各学問分野で得た知識を活かすことを自ら考え、時代の変化に対応できる力です。生活共創学部は、生活と社会の変化に対応できる力を身につけることを目指した学部であり、その学科は以下の2学科から構成されています。

生活共創学科：197名：学士（生活共創学）

生活諸領域に関する知識・技能に加え、周囲の人々と協働して課題解決ができる能力を身につけ、新たな価値を創出する人材を育成します。

こども教育学科：50名：学士（こども教育学）

こどもが未来社会で創造的に生きていくための教育・保育を協働して推進できるプロフェッショナルを育成します。

【学部名称「生活共創」に込めた思い】

東京家政学院大学は2023（令和5）年に学院創立100周年を迎えた、家政学を常に牽引してきた歴史ある大学です。

- ① 「生活」すべてを対象とする広範な領域を扱う学際的かつ文理融合の先駆けともいえる「家政学」をベースにしつつ、「生活者」の視点から、自らの生き方、地域・社会のあり方を考え、周囲と協働して「共に創りあげる」力を養う。
- ② そのための教育を、学内では専門や部署を超えた教員・職員が協働し、学外では地域、他大学・学校、実務家など多様な人々と「共に創りあげる」。
- ③ 学生及び教職員が地域・社会をフィールドに、地域や社会が抱える課題に向き合い、地域・社会の関係者と共に考えることで、持続可能な地域・社会を「共に創りあげる」。

……………学部のポイントとして……………

「より良い社会を共に創る」人材の育成を目指して

- ① ジェンダーフリーの生活科学 = **男女共学**
- ② 生活を変革するプロフェッショナルの育成
- ③ 地域・社会と共に創る未来

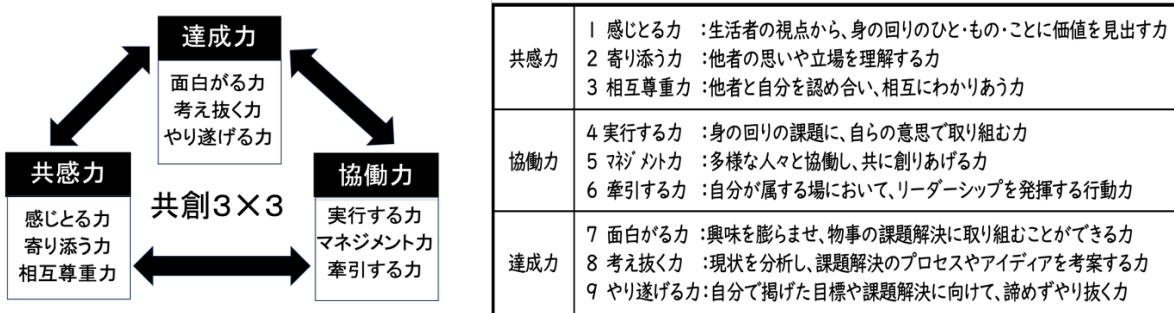
① ジェンダーフリーの生活科学 = **男女共学**

本学が家政学分野（衣・食・住・児童を中心とする生活諸領域の研究分野）で培ってきた教育研究リソースを最大限に活用し、さらに新しい未来の生活科学分野の発展・構築に主導的役割を果たすことを通して社会的存在意義を高めていくためには、その対象を女子のみにとどめるのではなく、性別を超えて広く多様な人々に教育機会を提供すべきであり、生活科学分野を新時代に適したジェンダーフリーの学問として発展させることは、家政学の基礎を築いた本学院に課せられた使命であると考えています。

② 生活を変革するプロフェッショナルの育成

生活者の視点から、多様な人々と協働して身近な変革を起こし、地域・社会の持続的発展に寄与するとともに、「より良く生きる」こととは何かを考え、成長し続ける人を育成します。

プロフェッショナルに求められる「共創3×3」の資質



③ 地域・社会と共に創る未来 = カリキュラムの特性

急速に変化する社会にあって、学生が周囲の信頼を得つつ、主体的にキャリアを形成し、より良き生き方を追求するために、如何なる能力を身につけることが望ましいかを第一に考え、それに相応しいカリキュラムを編成しています。また、「開かれたキャンパス」とし、地域・社会において確かな信頼とプレゼンスを確立することを重視しています。

○ポイント1：学部共通科目

マーケティング、リーダーシップ、データサイエンス等、未来生活の変革を目指す科目を配置しています。

各学年の全てにゼミ（初年次ゼミ、共創プロジェクトゼミ、アドバンスゼミ、卒業研究ゼミ）を配置し、徹底したプロジェクト学習を実施します。

○ポイント2：専門基礎・専門発展科目

「家政学×イノベーション×教養」の複合領域の学びから、各分野の専門家に必要な広い視野の獲得を目指す科目を充実させています。

<生活共創学科>

- 生活イノベーションコースでは、将来の生活に焦点を当てた「ライフウェルネス科目群」、将来の地域と社会に焦点を当てた「フューチャーライフ科目群」、事業に必要な思考やスキルを身につけるビジネスに焦点を当てた「ビジネスイノベーション科目」を多面的に学び、事業を企画・提案・推進できる力を養います。
- 食科学コースでは、栄養士、教員、フードビジネスの専門家に必要な知識、技術、コンピテンシーを養い、食と栄養の科学に強みを持つ社会人としての基礎力を養います。
- 住環境デザインコースでは、建築・エクステリアデザインの基礎から応用に至る知識を身につける講義科目、実践力を養う演習・実習科目を開講し、生活者の視点に立って持続可能な住環境をデザインできる力を養います。

<こども教育学科>

1. 「保育の本質と目的」「保育の方法と内容」「教育課程と教科指導」「教育の理念と方法」「特別支援教育の基礎と応用」の領域は、保育士資格や教員免許状を取得するために必要な専門科目で構成されており、保育現場や教育現場で求められる専門的知識・技能を養います。
2. 「STEAM」の領域では、科学、技術、工学、芸術、数学の要素を組み合わせ、問題解決能力、創造性、協働性を育くみ、将来の多様な課題に対応できる汎用的な能力を養います。
3. 「保育・教育実習」領域は、「こども教育インターンシップ」や、各種実習等で構成されています。入学後の早い時期から卒業に至るまで、地域のなかで経験的に学ぶ機会を設け、こどもを取り巻く社会や地域が抱える課題に気付き、仲間と協働しながら課題解決に向かう実践力を養います。

○ポイント3：多様な講師陣

基幹教員、特任教員、特命教員、客員教員等の制度を柔軟に運用することで、他大学・機関の教員及び実務家を含む外部リソースを最大限に活用します。各分野の最先端の研究者・実務家の特別講義に加え、例えば「地域課題を考える」では、地域イノベーションという視点だけでなく、良き市民社会の形成に資する人材の育成を狙いとして、町田、八王子、相模原3市の政治・行政に実際に関わる人々を講師に迎え、実際に直面する課題、それらの解決に向けた考え方や思いを伝えてもらい、地域を知り、政治・行政に関心を持つ機会を提供します。

※内容等は変更の可能性があります。最新情報は本学ホームページをご確認ください。

2024（令和6）年8月23日

別紙2

高校生に「寄り添う」育成型入試、始めます！

その名は、「アサーティブプログラム」「アサーティブ入試」

2025年度入試から全学年の高校生を対象に、入試を受ける準備段階から、一人ひとりの高校生に寄り添って、その成長と進路選択にきめ細やかなサポートを行うアサーティブプログラムとアサーティブ入試を始めます。

高校生一人ひとりの、学力の三要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）の成長を促し、大学での学びに耐えられる力が身に付くよう育てて検証するプログラム（アサーティブプログラム）と、それらを前提とした多面的・総合的評価を行う総合型選抜の入学試験制度（アサーティブ入試）を実施します。

アサーティブプログラムでは、①アサーティブガイダンスを受けて内容を確認し、②本学職員と個別面談をして自らの進路や大学で学ぶ意味を一緒に考え、③MANABOSSという自主学習システムで、国語・数学・英語の基礎学力を培い、④本学特製のアサーティブノートを使って、自分自身のこれまでの進路や生き方を振り返り、自らが主体的に成長できるようにします。その上で、本学を志願する受験生はこのプログラムを通して本学で学ぶにふさわしい力が身についたかどうかを検証します。

この検証は、基礎学力適性試験、グループディスカッション、個別面談で実施。①基礎学力適性検査（国語・数学・英語のうち2科目選択）では知識レベルの基礎学力を問います。②グループディスカッション（数名のグループで、大学の提示する課題について議論）では主体的な態度と他者を尊重する態度等を評価します。③個別面談では主に思考力・判断力・表現力の能力を、学ぶ意欲、本学への志望動機等を通して評価します。

アサーティブ入試は、アサーティブプログラムでの検証で、本学で学ぶにふさわしい力があると評価された者が出願できます。この入試は専願となります。

*アサーティブの意味

- ・英和辞典では、「断定的な」「独断的な」「自己主張する」
- ・「自分も相手も大切にしたい自己表現」を意味する心理学用語。行動療法がもとになっており、コミュニケーションスキルとしても注目されている。
- ・アサーティブな態度とは「相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを主張できる態度」のこと。本学では「そのために自分を知り表現することが大切になる」という意味を付加して用いている。

※内容等は変更の可能性があります。最新情報は本学ホームページをご確認ください。

2024（令和 6）年 8 月 23 日

別紙 3

男女共学化について

2025（令和 7）年 4 月に町田キャンパスの生活共創学部を男女共学として、2026（令和 8）年 4 月に千代田三番町キャンパスの現代生活学部・人間栄養学部を共学化します。

【理由】

性別や年代を超えて広く多くの人々に、生活科学分野の教育研究の機会を提供することは、創立者大江スミにより築かれた我が国の家政学を 100 年にわたり継承してきた本学の使命であります。

【概要】

町田キャンパス・千代田三番町キャンパスを含む大学全体の共学化を基本方針とした上で、町田キャンパスについては 2025 年度生活共創学部への改組に合わせて男女共学とすることとし、千代田三番町キャンパスについても施設・設備の整備から、2026 年度に共学化します。

なお、共学化の実施にあたり理事長・学長を中心に在学生、保護者及び同窓生等に対して丁寧な説明を行い、承認を得ました。多くが共学化に肯定的であり、千代田三番町キャンパスの学生についても学友会が行ったアンケート調査結果では、全学年合計で賛成が 71.2%と多く、低学年ほど賛成比率が高いことが明らかになりました。

【東京家政学院大学中学校・高等学校】

東京家政学院大学中学校・高等学校については、現時点では女子校と位置づけており、今後、教職員及び在校生、保護者、同窓会への丁寧な説明を行い、検討していきます。

※内容等は変更の可能性があります。最新情報は本学ホームページをご確認ください。